

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

黒松内町生涯活躍のまちづくり推進プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道寿都郡黒松内町

3 地域再生計画の区域

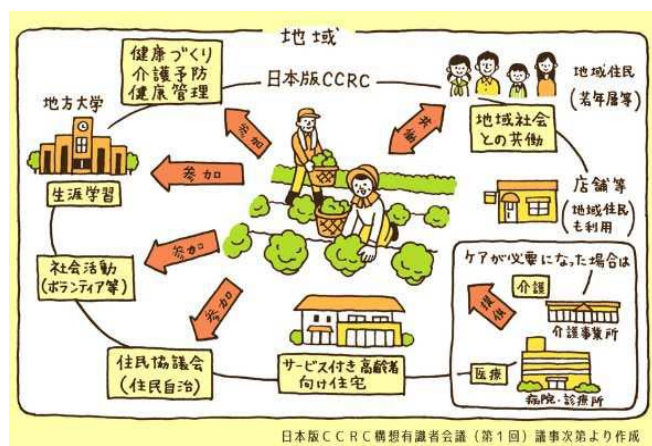
北海道寿都郡黒松内町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

黒松内町総合戦略の中の「生涯活躍できる健康志向のまち」を実現するためには、次のような課題があると考えられる。本町の人口ビジョンの分析結果に対する考察ですが、本町には高校や大学が無いことから「高校や大学進学時の若年層の転出が多く、進学時には若年層の転出が多く見られ進学や就職を機会に町外に出たままというケースが見られた。さらに、「20代女性の定住率が低く、町に若年層の女性が暮らしていても町内での結婚や出産につながらないケースも課題である。これは、今後生まれてくる子どもの数が減少することを意味していると考えられる。

また、本町はディ・サービスセンターや介護老人保健施設、老人ホームなど福祉施設があり、介護サービスなどが充実した「福祉のまち」である。福祉施設入所のために毎年15人程度の後期高齢者（75才以上）の転入があること



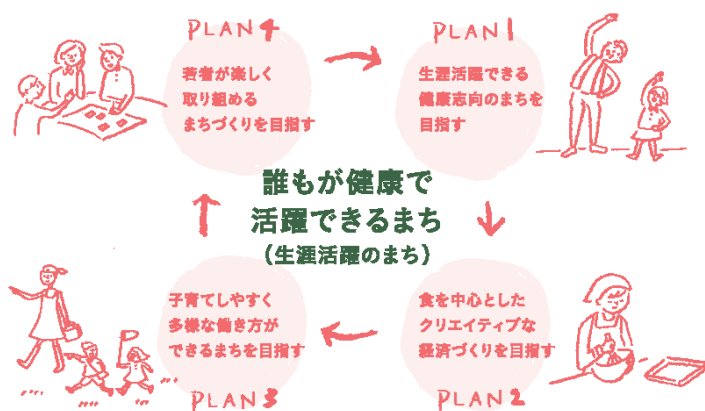
や、福祉が町内の安定した雇用の場であることが挙げられる。このまちの充実した医療福祉を基盤に、施設への入所の段階ではなく、施設に入所する前の50～60代の元気なアクティブシニアに移住してもらい、地域の人材として活躍してもらうことで地域力を向上させていくことが課題となっていて、このような課題を解決するために今回の交付事業を実施するのである。

4-2 地方創生として目指す将来像

本町は、北海道南西部、後志管内の南端にあり、札幌市と函館市のほぼ中間点に位置し、北は寿都町を経て日本海に臨み、南は長万部町を経て太平洋を臨んでいるが、いずれもわずかな距離で直接海岸に接することがない特殊な地形である。「黒松内町人口ビジョン」では、本町の人口は昭和30年の7,438人をピークに減少を続け、平成27年にはピーク時から約40%減の3,017人に、更には約30年後の平成52年には2,013人と約30%を切ると推計される。

そのような中、本町が平成28年3月に策定した黒松内町総合戦略の中の「生涯活躍できる健康志向のまち」を実現するためには、「健康」をテーマに生涯活躍のまち事業を推進することが望ましいと考えられる。「生涯活躍のまち」の将来のビジョンとして、地域の資源である「食」と「健康」をテーマとした生涯学習の場であり、住民参加型のアクティブシニアなどみんなが集まって学べる

場の「たべるとくらしの学校」を開校し、様々な世代や職種をつなぎ、将来的には、住民や地域の専門家が講師となり、お互いに学び、教え合うことが想定される。このような「たべるとくらしの学校」を活用し、まちの商店や飲食店の事業者などが予防や健康づくりの知識を深めるこ



とで、自らの事業に活かしてもらおうとともに、若い世代の新たな起業支援の場となることも理想の一つと考えられる。

また、ケアのある安心な地域に活躍の場を作ることで、都会からの移住者を誘致することが期待される。さらには、アクティブシニアに対し、地域の資源である「食」と「健康」をテーマとした、子育てや起業、移住、福祉など様々なジャンルのカリキュラムを準備して、まちのみんなの知識や経験、生涯学習の場づくりや、誰もが生涯活躍できるまちを目指すのである。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
生涯活躍のまち事業 の移住者数	50	3	3	4
ちょっと暮らし住宅 「お試し移住体験ハ ウス」利用組数	41	4	5	6

	KPI増加分の累 計
生涯活躍のまち事業 の移住者数	10
ちょっと暮らし住宅 「お試し移住体験ハ ウス」利用組数	15

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

「生涯活躍できる健康志向のまち」を実現するには、行政や専門家と協働しながら誰もが活躍できる場やコミュニティを生み出すことが大切である。生涯活躍のまち事業では、食と健康について学び実践する生涯学習の場づくりを提案し、様々なことについて学び合いながら、実践できる環境を創っていくので

ある。さらに、生涯学習の場を拠点に、都会のアクティブシニアを誘致することで生涯活躍のまちづくりの促進を図っていくものである。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

北海道寿都郡黒松内町

② 事業の名称：

黒松内町生涯活躍のまちづくりプロジェクト推進事業

③ 事業の内容

総合戦略のテーマである「生涯活躍できる健康志向のまち」を実現するには、住民自身が健康づくりや予防についての正しい知識や最先端の事例を学び、行政や専門家と協働しながら誰もが活躍できる場やコミュニティを生み出すことが大切である。生涯活躍のまち事業では、生涯活躍できるまちのビジョンとして、食と健康について学び実践する生涯学習の場づくりを提案するものである。これにより、町民やまちの商店、飲食店などの事業者が、健康づくりや予防について学び合いながら、医療福祉事業者とともに実践できる環境を創っていくものである。さらに、生涯学習の場を拠点に、都会のアクティブシニアを誘致することで生涯活躍のまちづくりの促進を図っていくものである。



④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

住民参加型のみんなが集まって学ぶ「たべるとくらしの学校」を拠点に、みんなが健康で生涯活躍できるライフスタイルを実現させるための企画や実現を目指すものである。「健康」をテーマにした活動や仕事を6つに絞り込み、人材育成や起業支援、商品開発を支援し、起業支援講座やワークショップを開催し、本格起業前のチャレンジの場として活用し、生涯活躍のまちを推進するための地域活動に参加するとともに、空き店舗や空き家などを活用し、起業を目指す取組を行い、将来的にはサポート支援に頼らずに自立していくものである。

【官民協働】

生涯活躍のまちを進めるにあたって、住民有志で構成されている官民一体の「たべるとくらしの学校」でワークショップなどで協議を進め、民間活力を取り入れた運営体制を構築していくことがポイントである。

【政策間連携】

「生涯活躍のできる健康志向のまち」を実現するために、「健康な食」や「いきいきとしたくらし」をテーマに掲げ、CCRCと健康増進などの施策が連携し、移住者と住民の一体的な生活の質の向上を図るものである。

【地域間連携】

特になし

【その他の先導性】

特になし

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
生涯活躍のまち事業 の移住者数	50	3	3	4
ちょっと暮らし住宅 「お試し移住体験ハ ウス」利用組数	41	4	5	6

	KPI増加分の累 計
生涯活躍のまち事業 の移住者数	10
ちょっと暮らし住宅 「お試し移住体験ハ ウス」利用組数	15

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

昨年設置した「黒松内町生涯活躍のまち推進委員会」は年度末で一度解散して、これから別枠で進めていく観光地域づくり分野と統合した「黒松内町地方創生推進委員会」を新たに設置し、黒松内町総合戦略に定める施策の進捗状況を検証し、設定したKPIを達成するために、黒松内町総合戦略の成果について客観的な検証を行うものである。

【外部組織の参画者】

(産) 黒松内町商工会長・黒松内町建設業協会長、(官) 黒松内町副町長、(学) 黒松内町教育委員会教育長、(金) 北海信用金庫黒松内支店長、(医療) くろまつないブナの森診療所所長・ぶなの

森レインボー歯科クリニック院長、（福祉）社会福祉協議会会長、
社会福祉法人黒松内つくし園理事長、（介護）勤医協黒松内在宅総
合センターセンター長・ホームヘルパーステーション施設長・黒松
内町ディサービスセンター所長、（商工・観光）黒松内町観光協会
会長・ブナの里振興公社代表取締役社長・黒松内町商工会青年部部
長、（交流実践者）黒松内町まちづくり推進委員会委員長・黒松内
町フットパスボランティア会長・ぶなの森自然学校代表・ブナ里交
流町内ネットワーク会長、（観光業者）登山ガイドノースランド、
（農業者）ようてい農業協同組合地区担当理事 など

【検証結果の公表の方法】

町広報紙及びホームページにおいて掲載する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 15,000千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3カ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

昨年設置した「黒松内町生涯活躍のまち推進委員会」は年度末で一度解散して、これから別枠で進めていく観光地域づくり分野と統合した「黒松内町地方創生推進委員会」を新たに設置し、黒松内町総合戦略に定める施策の進捗状況を検証し、設定したKPIを達成するために、黒松内町総合戦略の成果について客観的な検証を行うものである。

【外部組織の参画者】

(産) 黒松内町商工会長・黒松内町建設業協会会長、(官) 黒松内町副町長、(学) 黒松内町教育委員会教育長、(金) 北海信用金庫黒松内支店長、(医療) くらまつないブナの森診療所所長・ぶなの森レインボー歯科クリニック院長、(福祉) 社会福祉協議会会長、社会福祉法人黒松内つくし園理事長、(介護) 勤医協黒松内在宅総合センターセンター長・ホームヘルパーステーション施設長・黒松内町ディサービスセンター所長、(商工・観光) 黒松内町観光協会会長・ブナの里振興公社代表取締役社長・黒松内町商工会青年部部長、(交流実践者) 黒松内町まちづくり推進委員会委員長・黒松内町フットパスボランティア会長・ぶなの森自然学校代表・ブナ里交流町内ネットワーク会長、(観光業者) 登山ガイドノースランド、(農業者) ようてい農業協同組合地区担当理事 など

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
生涯活躍のまち事業 の移住者数	50	3	3	4
ちょっと暮らし住宅 「お試し移住体験ハ ウス」利用組数	41	4	5	6

	KPI増加分の累 計
生涯活躍のまち事業 の移住者数	10
ちょっと暮らし住宅 「お試し移住体験ハ ウス」利用組数	15

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、町広報紙及びホームページにおいて掲載する。